

より安全に薬を使用するために

令和4年11月20日（日）から11月26日（土）は医療安全週間です。

薬を安全に使うためには薬の効果や飲む量、飲むタイミングについて正しく理解する必要があります。薬を受け取る際にこれらを確認し、分からないことがあったら薬剤師にご質問ください。より安心できる薬物治療を提供するための薬剤師の取り組みについてご紹介します。

処方箋の内容に問題がないか確認

医師から処方箋が発行された場合に、薬剤師は患者さんの安全を確保するために患者さんのアレルギー歴や服用薬、肝機能や腎機能の程度、体調などの情報を収集し、処方箋の内容が患者さんに適切かどうか検討します。

処方せんの内容に問題がないか「処方監査」を行います。



医師と協働

その際、薬の量や飲み方、飲み合わせなど処方内容に疑問を感じたときは処方した医師に相談し、患者さんに適した薬や飲む量、飲み方を提案しています。より安全で効果的に薬が使用されるよう医師と話し合っています。



薬の調製

このように処方内容に問題がなく、患者さんの安全が確保されていることを確認した後、薬を調製します。

そして、調製された薬に間違いがないか再度確認しています。



薬の説明

患者さんが薬を適正かつ安全に使用していただくよう、患者さん個々に応じた使い方や注意事項などを説明して、薬をお渡しします。

吸入剤や自己注射剤などの特別な器具を用いる薬においては使用手順についてより詳細に説明し、服薬支援を行っています。



患者さんのケア

患者さんとお話した内容を記載する服薬支援の記録には、患者さんごとに、過去の副作用や薬の効果の有無など、多くの事項についても確認し記録しています。

また、退院後も継続した薬物療法が実施されるように、入院中の情報を他職種と共有します。



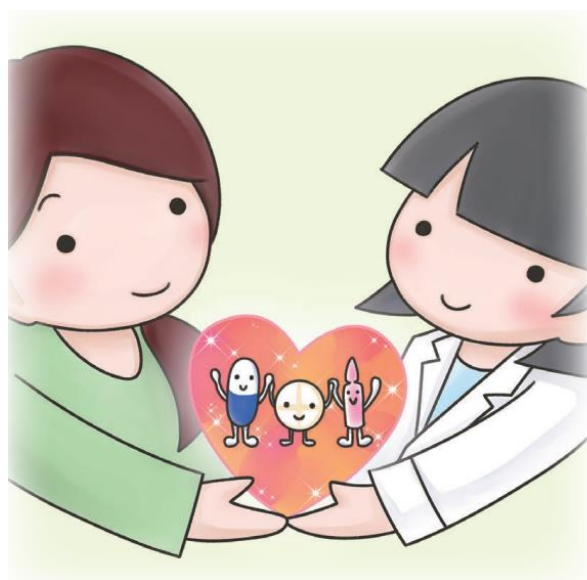
使用後のケア

さらに薬を使用後の薬の効き方や症状の変化を観察して、薬物治療の評価や問題点を把握し、医師や患者さんにその内容をお伝えするとともに、次の処方案を提案しています。

薬のことで気になることがあれば何でもご相談ください。



知りたいという気持ち 伝えたいという気持ち



薬に関して疑問がありましたら何でもお尋ねください